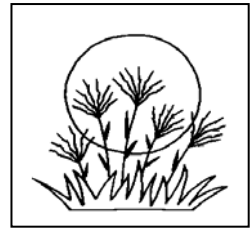


2009年秋号

# ぷらう 41号



発行: TEACCH プログラム研究会

<会長のつぶやき>

## 課題の中身

TEACCHプログラム研究会会長 内山 登紀夫

やや個人的なことになりますが、今年で TEACCH と出合って 20 年になります。最初に TEACCH に出合ったのは 1989 年 1 月安田生命社会事業団（現明治安田こころの健康財団）と朝日新聞厚生文化事業団の協力で東京で開催された 5 日間のトレーニング・セミナーに参加したのが出会いでした。

20 年前、TEACCH に出会うまでは自閉症の「治療」といえば行動療法と、興奮を一時的に抑えるだけの薬物療法しかありませんでした。当時の私は行動療法を一生懸命に勉強して、行動療法の専門家に指導を受けながら自閉症の幼児の「言語療法」や問題行動の治療に取り組んでいました。感覚統合も少し勉強しました。行動療法は効果があったように感じました。例えば、名前を呼んで手を挙げると褒めるということを繰り返すと、かなり重度の自閉症の幼児でも手を挙げるようになりました。当時はできることが少しでも増えていけば良いと思っていましたし、できることが増えるとスタッフも親も喜びました。当時診ていた子どもは重度の知的障害を伴う自閉症であったこともあり、「普通」になることはありえないにしても、1 つでも 2 つでもスキルを増やして普通に近づいていくことが支援なのだと思っていました。スキルが多少増えても、子どもの全体像はそう変わるわけではなく、治療の影響なのか、自然の発達なのか良く分からず、問題行動が改善したかにみえた家庭や学校の状況が変わるとまた出現したりして、どこまでも治療の効果なのか良くわからないのが実感でした。当時はスタッフの制約などで行動療法といっても週に 1 時間が限度でしたが、外国では週に 40 時間やれば「半分は普通になる」という説もあり、もっと予算がついて一対一の指導時間が増えれば改善するのだろうか、そんなことが可能だとしても、本当に半分が普通になるのだろうかと思っていました。

そんなときに「ワークシステム」「スケジュール」「フィニッシュボックス」といった TEACCH の支援技法に出合って、強く感動したのですが、感動と同時にこのような方略は、スキルを伸ばすことを少なくとも直接の目的にはしていないことに、ちょっと不思議な感じがしました。それまで勉強していた行動療法は課題分析をしたり、強化の方法を工夫したりして、スキルを増やすことと問題行動を減らすことを主な目標にしているように感じました。同時に、子どもの獲得したスキルや適応行動の不安定さに日々直面していた自分にとっては外的な環境の操作を重視する TEACCH の考え方はピッタリとはまりました。それまで「何を教える」か「どうやって強化するか」が中心に議論してきていたのに、「どういう環境下で教えるか」、つまり物理的構造化や視覚的構造化をどうするかに注目することは新鮮で、自閉症の子どもたちにこそ必要な視点だと思ったわけです。しばらく私の関心は「課題の中身」よりも「構造化」に向かいました。



TEACCH に留学したときに、師匠のジャック・ウオール先生から「TEACCH

の構造化はフォーマット（枠組み）に関することで、コンテンツ（教える中身）ではない」という説明を聞いて、なるほどと思いました。今年の自閉症カンファレンス NIPPON でもメジボフ先生は「TEACCH のカリキュラムは何かと良く聞かれるけど、TEACCH 独自にカリキュラムというものはない」と説明して、ただし、ジョイントアテンションなどいくつかの課題については意識して教えると仰っていました。

TEACCH のフォーマットの使い方については、習熟してきた人たちが多いのではないかと思います。

最近では SST やソーシャルストーリーを導入する機関が増えてきましたし、構造化された教育を行う学校も増えました。構造化が上手にされていても中身について疑問に感じることは最近では増えてきました。SST もソーシャルストーリーも、今教えようとしている内容が、1対1のニュースキルや自立課題では「箱の中の課題」が子どもの状況とピッタリあっているか、いつも枠組み（フォーマット）と一緒に中身（コンテンツ）もセットで考える必要があると思います。ソーシャルスキルも課題の中身も、スキルが少しでも増えれば良いという視点で選んでないか、あるいはとりあえず課題に取り組めば良いという視点で決めていないかという問い続けることが大事ではないでしょうか。たとえスケジュールやワークシステムを理解して自立して動けていても、中身のタスクがその人にとって、意味があるタスクなのかどうかも常に考える必要があります。

私は TEACCH と出合って、フォーマットを意識するということを学びました。コンテンツについては子どもの住んでいる地域や子どもの興味や能力によって無数にバリエーションがあるはずですが、構造化の手段もバリエーションはあるのですが、コンテンツははるかに多様だと思います。その箱の中身が、あなたが今教えようとしているソーシャルスキルが自閉症の子どもや成人にとって意味があるか、いつも自問自答しながら準備し、自閉症の人の取り組み方の様子を見て、その課題を続けるのか、別の課題に変更するのか、などを常に検討することが支援者の重要な役割です。教える中身を考えることは楽しいことですし、支援者のアセスメント能力、想像力、創造力を発揮する腕の見せ場なのかもしれません。

## 『コラボレーションセミナー 2010』でお会いしましょう！

TEACCHプログラム研究会ではTEACCH部との相互協力（コラボレーション）を通じて自閉症の人の支援の向上を目指しています。

第2回のコラボレーションセミナーではバーガディン先生をお迎えして、意見交換を行います。バーガディン先生は現在ノースカロライナ大学教授・ラーレイTEACCHセンターのディレクターとして活躍されています。以前は重度の成人のためのCLLC（カロライナリビングアンドラーニングセンター）のディレクターをされていました。青年期・成人期の人の居住サービスや就労支援に長年にわたり情熱的に取り組まれている方です。

バーガディン先生との議論を通じて日本とノースカロライナの自閉症の人の支援に役立てたいとお考えの方は是非ご参加ください。

～TEACCHプログラム研究会会長 内山登紀夫～

と き 2010年1月30日（土）、31日（日）  
ところ 京都染織会館 シルクホール  
講 師 マリー・バーガディン氏（ノースカロライナ大学教授・ラーレイTEACCHセンター所長）  
参加費 TEACCHプログラム研究会会員：10,000円、一般：15,000円

テーマ 「成人期の支援」

1日目 講演1『成人期に充実した生活をおくるために  
—自閉症の人が身につけておくべき10のことがら—』  
講演2『自閉症の人の役に立つために  
—支援者が習得しておくべき10のことがら—』

2日目 実践報告とディスカッション

『青年期・成人期の実践』

TEACCH研の会員から日本の実践を報告し、バーガディン先生と情報や意見の交換を行います。

※詳しくは同封の案内パンフをご覧ください。

## 平成21年度・第2回理事会報告

参加者：内山、村松、宇山、榑原、辻、谷中、黒田、北山、藤井、野畑、浅井、大西  
草原、内田、進藤、今村、三ヶ田、井上、濱田、竹内、南前

欠席者：諏訪

日時：平成21年7月4日（土）13：00～16：00 場所：ハートピア京都

### 議案1.第9回実践研究大会（熊本）の会計報告

今村理事より実践研究大会の会計報告がなされ、全理事により承認された。

この結果、熊本大会の収益金 624,670 円が本部会計に計上されることとなった。また実践研究大会開催準備マニュアルの作成については宇山氏、諏訪氏の両理事にお願いすることになった。

### 議案2. 2010年コラボレーションセミナーの実施について

村松理事よりセミナーの準備日程について提案があり、了承された。

また発表者4名が決定した。

福岡支部 内田氏 佐賀支部 水野、大野氏

神奈川支部 原崎氏 滋賀支部 さわらび作業所

### 議案3. 平成22年度香川トレセミについて

草原理事より香川トレセミの計画案と予算案が出され了承された。

### 議案4. 次回2012年のトレセミ開催地について

トレセミ開催地は鳥取支部と決まった。

### 議案5. ぷらう41秋号について

今村理事よりぷらう秋号の内容と担当者について提案され、了解された。

### 議案6. 大分支部立ち上げの承認

支部会則、名簿、活動計画、予算案を大分の三ヶ田氏が提出され、内山会長の承認後、参加理事全員の承認を得て大分支部設立が了承された。

### 議案7. TEACCH研主催の研修会受講者の受講証明書発行や資格取得について

TEACCHプログラム研究会の意義理解のために、今後も継続して話し合っていくこととな

った。

## 議案 8. その他

次回の理事会の日程と会場

平成 22 年 1 月 29 日 PM6 : 30 より開始 (PM6 : 00 開場)

場所はハートピア京都

事務局交代 : 平成 22 年度より本部事務局は鳥取支部から大阪支部に移る

### 平成 22 年度総会のご案内

場所:シルクホール(財団法人京都染織会館)

期日:平成 22 年 1 月 30 日(土)

午後 4 時 45 分~午後 5 時 15 分

☆あたらしく立ち上がった支部の紹介があります。

☆大事なみなさんの会費の執行状況や本部の活動について  
報告します。ぜひご参加下さい。



### HP 管理からのお知らせ

最近になって、一部Mac OS-Xと、あるブラウザの組み合わせの場合、HP閲覧が出来無いことが報告されました。対策を練っていますが、一筋縄ではいかないようです。一部会員様には大変ご不自由をおかけしますが、今しばらくお待ちください。

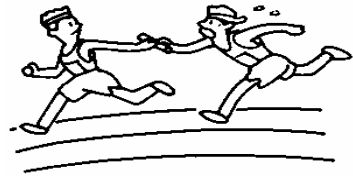
ぷらう秋号発行後のパスワードは

**JF3KDD**



よろしくお願ひします。

# 列島リレ〜



## 愛知支部

全国の会員のみなさまこんばんは。

今、すべてのテレビでは選挙速報を報道中です。わずかな時間に続々と当選者が発表され政権交替となりそうな雰囲気ですね。

若者の就職率が高くなり、障がいのある人たちも暮らしやすくなることを期待しています。保育園の子どもたちにも明るい未来が来ますように！

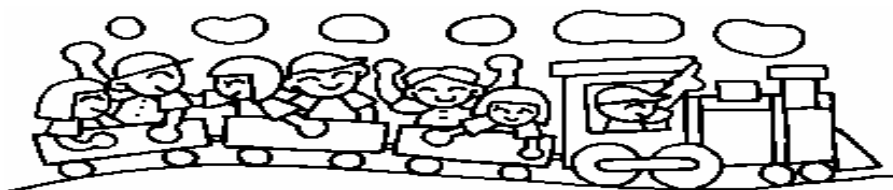
前置きが長くなりましたが、愛知支部の紹介をいたします。

結成は平成14年7月20日（全国でも割合早い結成だと思います）。和歌山でのトレセミを受講したのをきっかけに、自閉症の人を本当に理解し、支援できるのはTEACCHの理念だと確信した保育園の園長が二人で保育園関係者を中心に勉強会を始めました。愛知には支部が無かったので京滋支部（当時は京都と滋賀が一緒でした）の勉強会に毎月出かけそこで出会った先生方に、愛知の勉強会の講師になっていただきました。初めての講師は現在滋賀の発達障害者支援センター長をされている井深允子先生で、自閉症の特性を丁寧に語ってくださいました。

諏訪利明先生もこの頃からのお付き合いですが、講師として見たときに「最近TEACCH研を語る不審な人たちがいるが、この勉強会は大丈夫でしょうか？」といわれたこともあり、支部結成を決意するきっかけともなりました。

結成から7年目を迎えている愛知支部は、会員数203名（6月30日現在）となり、諏訪先生・野畑先生のご指導の下、毎年ミニトレーニングセミナーを開催できるようにもなりました。会員の内訳は保育士48、教師40、保護者37、ヘルパー・介護士24、施設職員15、セラピスト・ST15、医師5看護師4、その他14です。医療現場の会員がもう少しほしいなあと考えています。皆さんの支部はいかがでしょう？

平成23年1月又は2月に実践研究大会を愛知で開催予定です。あつあつの味噌煮込みや活力の元となるひつまぶしがおいしい愛知で実践を出し合い勉強しましょう。



## 鳥取支部

鳥取県といえば地図で見るととても小さい県です。が、創設時期は支部の中では結構早く、1995年から支部を立ちあげ約14年が経っています。14年前京都で行われた佐々木正美先生の公開講演会に参加した3名の父ちゃん母ちゃんたちの熱い思いがTEACCH研鳥取支部の産声をあげさせ、その会員も今102名に増えました。支部の特徴は地区勉強会が2箇所にあり、会員は望めば近くの例会に毎月参加できることです。

文字どおり職種を越えた会員が集まりあつての例会は、職場のみの世界とは違い様々な刺激があつて新鮮そのもの！ある時は職場の愚痴やある時は先輩保護者のしみじみとした感想を聞いたりと、専門の現場のおいしい情報を交換したり、療育センターのSTを囲んで質問攻めにしたり。気づけば知らない新人さんがよく混ざって聞きに来てくれたりしていますが、会員として定着していかないのが悩みのたね、、、。

また毎回少しずつ勉強を重ね、いざ次の段階へというときにどっと新しい人が増え、また初めから勉強をすることになり、古い人が出てこなくなったりという矛盾も感じつつ例会を続けているのも現実です。皆さんの支部ではどうですか？



### 新支部紹介！ ～大分支部～

今年の7月4日の理事会で正式に承認され、いよいよ大分でTEACCHプログラム研究会が開催されることになりました。心待ちにされていた保護者・家族の皆様や、現場での指導にお困りの学校の先生方の学びの場として、少しでもお役に立てるよう事務局一丸となって会を盛り上げていきたいと考えております。

大分のTEACCHプログラム研究会では、構造化についての学習をはじめとした支援の技術を学ぶだけでなく、保護者同士のネットワーク作りや情報の共有、保護者と専門家の協力、また支援機関の連携も大切なことと考えます。そしてその中でTEACCHの理念（TEACCH PHILOSOPHY）を学んでいくことが特に重要だと考えます。

TEACCHの最も素晴らしいところは、自閉症を中心とした発達に躓きを抱える子どもたちの、発達の違いを文化の違いを受容するように受け止め、一緒に生きていく姿勢であり、私自身はそこに感動を覚えました。自閉症の文化について学ぶ新しい扉を、大分の仲間と共に開いていきたいです。また、全国のTEACCHに学ぶ仲間との交流も楽しみにしております。先進的な取り組みをなさっている都道府県の先生方、是非大分に来ていろんなことを教えてください。皆様ご指導ご鞭撻のほど、宜しく願い申し上げます！

大分支部 支部長 三ヶ田智弘

# 速報！

## 2010年(平成22年)夏 トレセミIN香川！！

TEACCHプログラム研究会では、1989年以降トレーニングセミナーを全国各地で開催してまいりました。

来年度(2010年度)、第16回目のセミナーが香川で開催されることになりました。香川では1993年以来17年ぶりの開催となります。本セミナーは自閉症の人たちへの治療、教育、福祉に携わっている方を対象に、自閉症への理解を深め、支援技術のさらなる習得を目的としています。過去に多くの方が受講し、知識と技術を身につけ各地でご活躍されています。

トレセミとは講義と実習から成っています。トレーナー(自閉症療育のスペシャリスト)から自閉症の特性や支援についての講義をしていただきます。そして、実際に自閉症の方(協力者)にご協力いただき、講義などから得た知識を活かして、自立課題やコミュニケーションツールなどを計画・作成・実践・再検討していきます。

あなたも、香川でスキルアップ&おいしいうどんを食べにきませんか！！

☆期日、会場等は以下のとおりです。

- 1 期日:2010年 8月6日(金)~8日(日)
- 2 場所:香川県社会福祉総合センター 高松市番町一丁目 10番35号  
TEL 087-835-3334 FAX 087-835-4777  
JR高松駅より徒歩約15分 バス約5分(県庁前または県庁北通下車)  
琴電瓦町駅より徒歩約10分



- 3 トレーナーおよび講師 未定
- 4 申し込み資格(以下の3項目を満たす方)
  - ・TEACCHプログラム研究会会員(非会員は入会手続き後申し込み)
  - ・自閉症児・者の治療、教育、福祉に携わる専門職の方
  - ・セミナー3日間全日とおしての受講が可能な方
- 5 受講費 5万円(予定) ※昼食、懇親会費別途。宿泊は必要に応じて各自
- 6 定員 20名(4グループ編成:幼児、小学生、中高生、成人。各5名ずつ)  
※定員を超えた場合は書類選考
- 7 申し込み期間 2010年5月1日~5月31日
- 8 受講決定通知 2010年6月上旬

☆ 詳細、申込書は次号(2010年春号)に掲載します。

☆ 前回(2008年度)のトレセミの様子、プログラムは石川支部のHPをご覧ください。